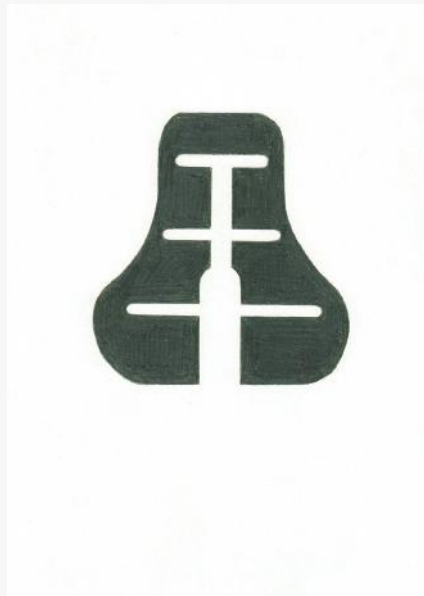
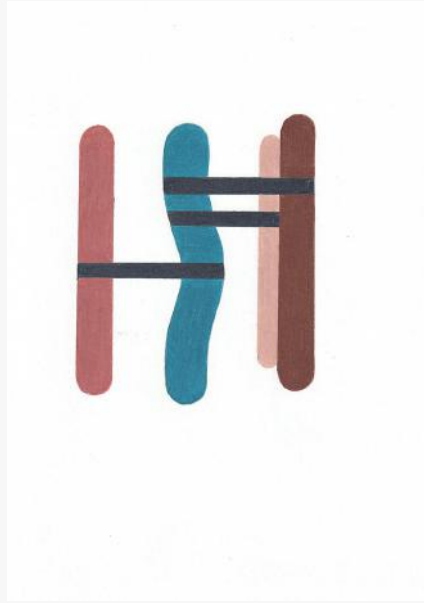
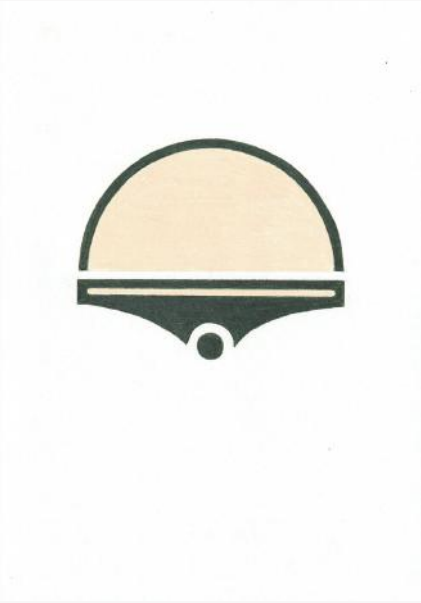


WORK DOCUMENTATION | YUYA SUZUKI

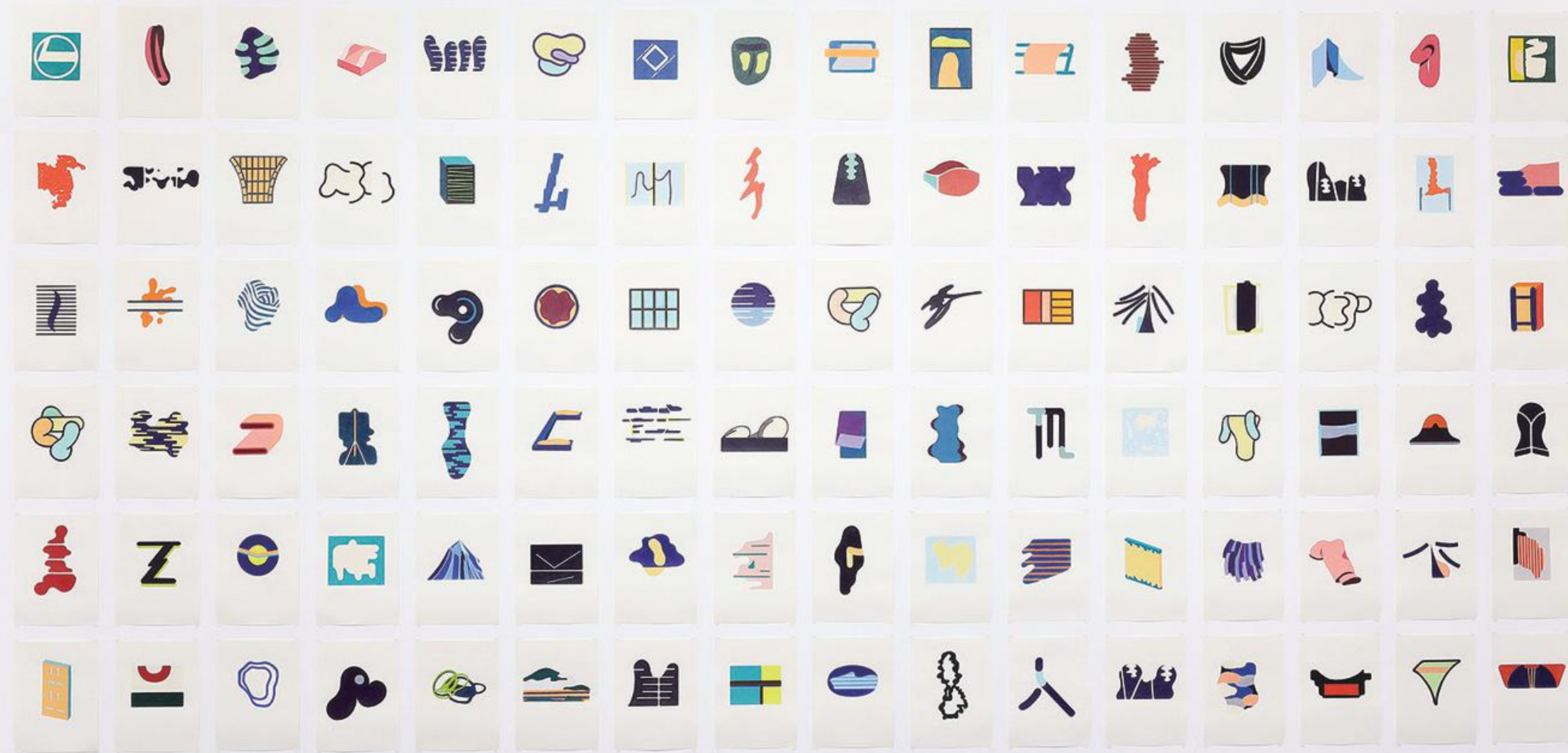
作品資料 | 鈴木悠哉



archegraph study アーキグラフ・スタディ (2015 - ongoing)

私はこれまでの制作において、都市環境の観察をベースとし、そこで発見した都市の断片的な要素をもとに記号的なイメージを抽出していくというドローイングのシリーズ「アーキグラフ・スタディ」を東アジアやヨーロッパの様々な都市において行ってきました。私が都市における歩行、観察を通じて発見する要素とは、例えば、路上に無造作に置かれたゴミや捨てられた家具、破られたポスターや壁のしみ、風化した建築の一部、グラフィティ、住民による庭先の造作物や、工事現場に置かれた資材とそのコンポジションなど、都市の機能からは逸脱した要素、生活の中で普段意識することはない、しかし無意識に見知っているモノや事象などです。私はこういった要素を都市における集合的無意識と捉え、これらをドローイングのプロセスを通じて抽象化（記号化）することによって、現代の都市風景を媒体とした独自のアルファベットを作り出していきます。私はこれをアーキグラフ (archegraph) と名付け、特定の意味内容を持たない象形文字のようなものと捉えると同時に、集合的無意識を媒体とした人類にとって原始的なカタチのパターンに根ざした架空の普遍言語のように捉えて制作しています。

私はこれらの都市から抽出したイメージを立体や映像、壁画やライトボックスなど、さまざまな媒体に転換していくことで、インスタレーションを構成します。現実の要素をもとに抽出されたイメージは、記号化のプロセスを通して再び現実に還元され、わたしたちが暮らす現実世界に関して独自のシミュレーションを提示します。



archegraph study_Tainan

2018

色鉛筆 紙

21cm×28cm (per each)

鈴木のドローイングのプロセスは、眼と手の反射のはざまに繰り返される、段階的な増大と還元のプロセスである。それはイメージの収集から始まる。マットレス、駐車場の車止め、放置されたソファ、建設現場の廃材など、多くの都市景観の周辺に属するガラクタ、モノ、その他雑多なものの集積である。それらは都市における集合的無意識のあらわれであり、そこに内在する都市の身振りである。雨に打たれ、カビに覆われ、ネズミに食われる。そのような自然が織りなす現象と人の手で形作られるものとのコラボレーション。

これらの断片は、鈴木が描くこと、見ること、作り出すことを繰り返しながら、記号へと昇華させる記号論的プロセスの生きた素材となる。ここでは、都市の直感と作家の直感とが交錯し、記号は都市の潜在意識のアルファベットであると同時に、鈴木の潜在意識のアルファベットとなる。言い換えるなら、鈴木による都市のモノへの操作とは、ネズミや雨、あるいはそれらを組み立てた人々の操作と似ていなくもない。つまるところ都市の本質とはそのようなもつれ合いの中にある。どのような芸術活動もそうであるように、鈴木の都市におけるモノとの関わりは、ある時点でパブリックに引き継がれ、鑑賞者はそれらをさらに変形し、形作り、作品によって絡みとられていくのである。

- Gustav Elgin



archegraph_Tainan
(research photos)
2018
台南市におけるリサーチ写真



YUYA SUZUKI
Post Language

Post Language Realm

2021

インスタレーション / ミクストメディア
Künstlerhaus Bethainen, Berlin



3 (4)

2021
アクリル樹脂, ファイバーグラス, スタイロフォーム
アクリル塗装
85cm×100cm ×100cm



()

2021
アクリル樹脂, ファイバーグラス, スタイロフォーム
アクリル塗装, スチール
180cm×Φ30cm



mid water

2021
木材, アクリル塗装
60cm×60cm×82cm



canals shoe

2021
アクリル樹脂, ファイバーグラス, スタイロフォーム
アクリル塗装
120cm×50cm×50cm



echo

2021
アクリル樹脂, ファイバーグラス, スタイロフォーム
アクリル塗装, ワイヤー
90cm×100cm×15cm



garbled letter

2021
アクリル版, ワイヤー
100cm×82cm



c (a) r_p

2021
木材, アクリル塗装
180cm×40cm



smoke (lightning)

2021
LED ライト, スチール
90cm×55cm×10cm



Post Language Realm

2021

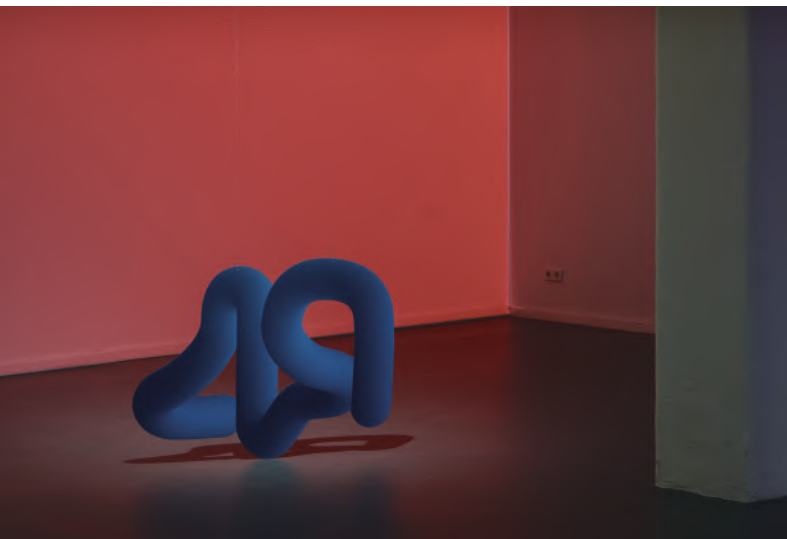
インスタレーション / ミクストメディア
Künstlerhaus Bethainen, Berlin



Post Language Realm

2021

インスタレーション / ミクストメディア
Künstlerhaus Bethainen, Berlin



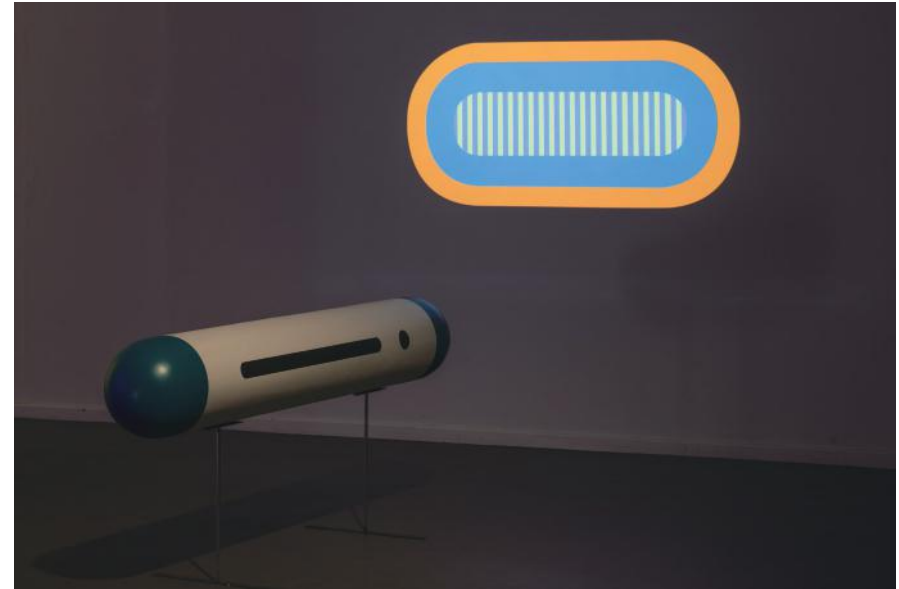
garbled letter
2021
アクリル版, ワイヤー
100cm×82cm



鈴木は、文化を超えて普遍的に共有できるイメージや潜在的な世界の記号体系を求めて、「アーキグラフ」と彼が呼んでいる作品の制作を行っている。彼は、ゴミ、建築物のディテール、破れたポスターやグラフィティで覆われた壁、自然現象で生じる形など、都市風景の中で継続的に、しかし無意識のうちに知覚されている残影のような、ありふれたものに反応します。公共の場で機能していないこれらの要素は、膨大なドローイングの過程で抽象化、また色と形のコンポジションに変換され、それらの構造を借受けるとともに、それ自体が新しく完全なカタチとなります。これらは、鈴木の独自のアルファベットとなっています。

クンストラーハウス・ベタニエンでの展覧会「Post Language Realm」では、3Dオブジェクト、アニメーション、壁画、ライトボックスなどで構成されたインスタレーションを発表しています。彼は普遍的な言語の可能性と同時にそのことの不可能性にも注目しています。公共空間における独立した記号を考古学的に探すこと。例えばブランドや広告業界のステレオタイプなイメージのように、多様なレベルで権力をシミュレートする階層的なシンボルの構造に目を向けながらも、意味や権力から逸脱し、人間の記憶や無意識によってアクティベートされる独自の言語のシステムとその領域を提示します。

Post Language Realm プレスリリースから抜粋





Intermediate

2022

インスタレーション / ミクストメディア

CAI03, 札幌



Submersion

2022

アクリル樹脂, ファイバーグラス,
スタイロフォーム, スチール, アクリル塗料

80cm×35cm×120cm

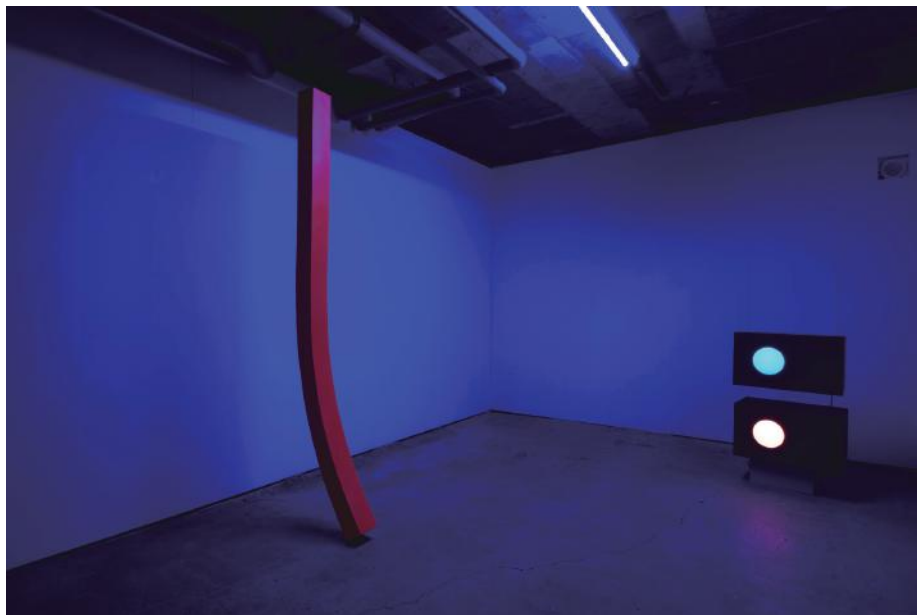


Words like Houseplants

2022

アクリル樹脂, ファイバーグラス,
スタイロフォーム, 木材, アクリル塗料

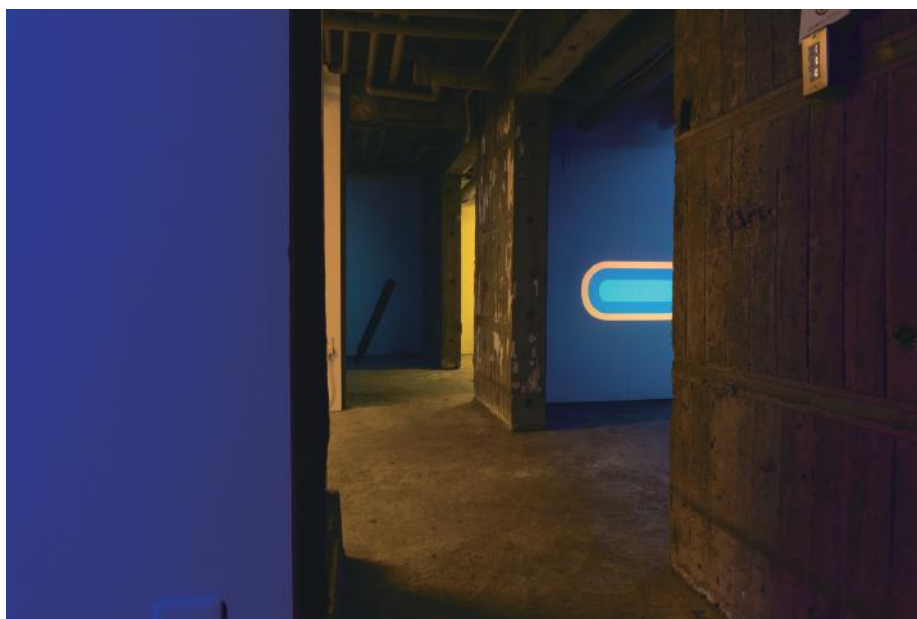
70cm×50cm×70cm



鈴木はこれまでの制作において、都市を集散的な無意識の集積と捉え、そこに見出されるカタチや構造をドローイングのプロセスを通じて独自の記号として抽出するシリーズ「アーキグラフ・スタディ」の制作をヨーロッパや東アジアの都市を中心に展開、また近年の制作においてそれらの記号的なイメージはさらに立体や映像、または広告看板の形態やマルチプルといった様々な媒体に転換され、インスタレーションという形態を通じて現実世界に関する独自のシミュレーションを提示してきました。今回 CAI03 での展示に於いては、「インターミディエート」をキーワードとして、もともとはアパートとして使われていた6つの小部屋の建築的な構造や特色をもとに制作されたインスタレーション作品の展示を行います。

インターミディエートとは中間体という意味を示し、ある状態が最終的な状態に移行するあいだの中間の状態、あるいはそこで生じる反応のことを示します。鈴木はインスタレーションの展示空間を現実とフィクション、あるいは意識と無意識との間の中間体であると見立てます。鈴木によって独自に記号化された都市の断片的なイメージは、親密さを伴いながらも具体的な事物や意味に結びつかないまま鑑賞者の内部で遊離し続けます。それらのイメージが立体物として再び現実に存在するときに、現実とフィクション、そのどちらでもない中間的な領域が浮かび上がってきます。そのことは同時に現実の捉え方を静かに揺さぶるものです。

— Post Language Realm プレスリリースから抜粋





Exclamation Arrows

2022

アクリル樹脂, ファイバーグラス,
スタイロフォーム, ワイヤー, アクリル塗料

Φ10cm×100cm



New Tomb

2022

アクリル樹脂, ファイバーグラス,
スタイロフォーム, 回転台, アクリル塗料

Φ30cm×80cm



Phantoms Agora

2019

インスタレーション / ミクストメディア

蕭壠児童美術館, 台南



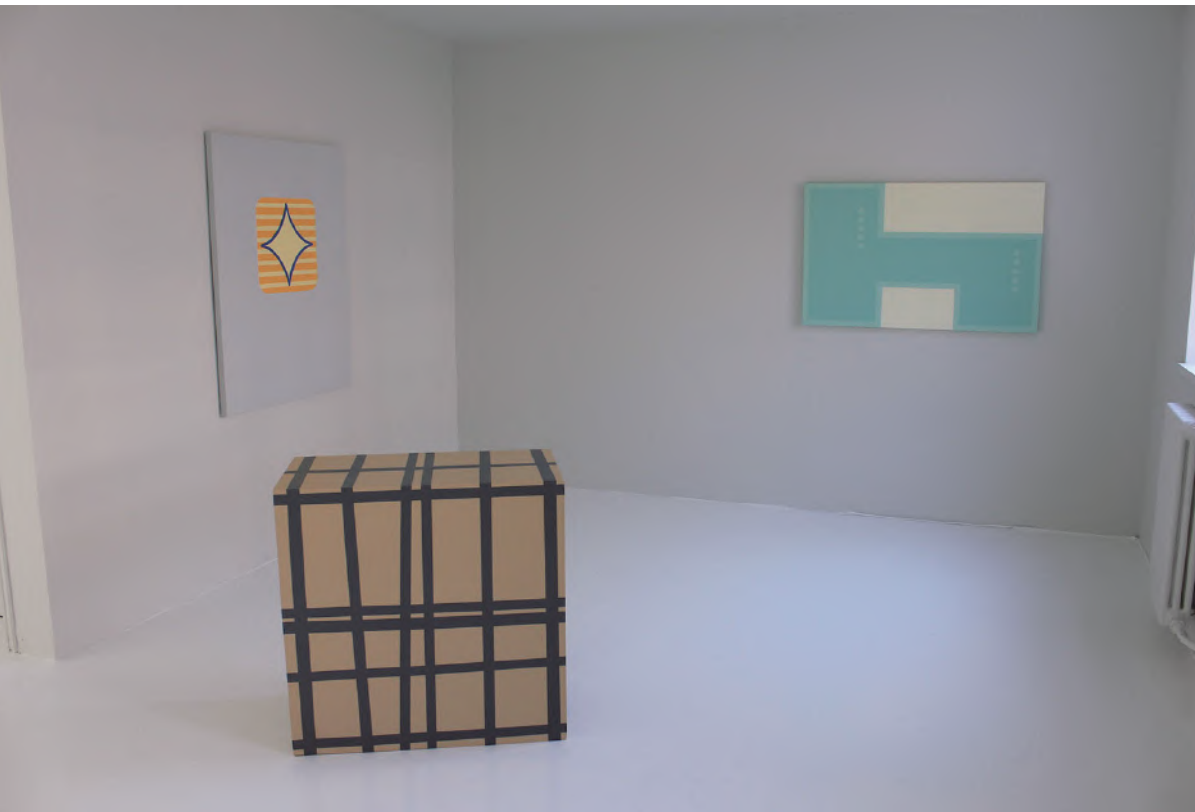
Phantoms Agora

2019

インスタレーション / ミクストメディア

蕭壠児童美術館, 台南

台南市（台湾）にある蕭壠（シャオロン）児童美術館における個展（2年間の常設展示）。台湾の幾つかの都市における路上観察をもとにドローイングを行い、それらのイメージを立体や映像、ライトボックスなどの形態に転換し、インスタレーション作品を制作。児童美術館という場所の特性を生かし、来場した子供や市民が自由に作品（立体）に触れることができる。また作品によってはそれらを動かす、机や椅子として使うことができ、来場者のアクティビティによって展示空間は流動的に変化するというインタラクティブな要素をインスタレーション作品に組み込んだ。



Furturistic Allegory

2019

インスタレーション / ミクストメディア

Migrant Bird Space, 北京

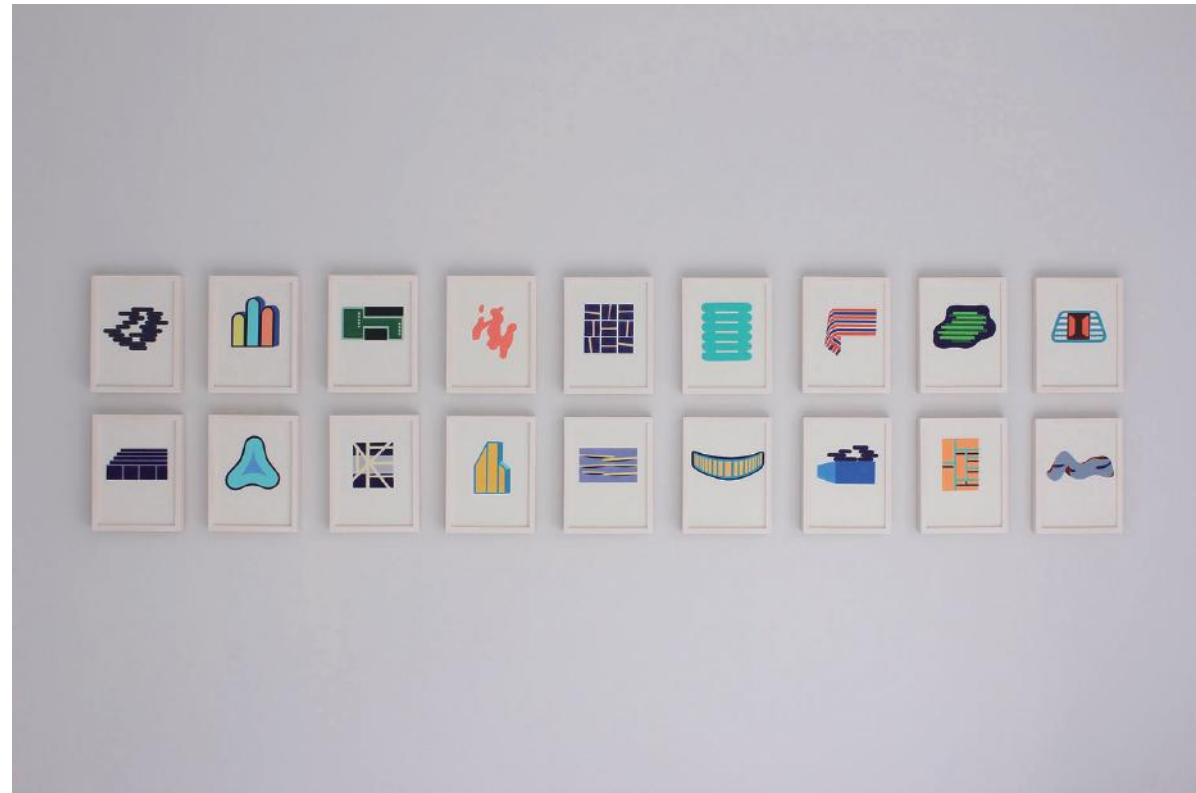


archegraph_Beijing #13

2019

アクリル, キャンバス

194×112 cm



archegraph study_Beijing

2019

色鉛筆, 紙

21×28 cm



archegraph study_Beijing

2019

アクリルガッシュ, 紙

50 × 60 cm

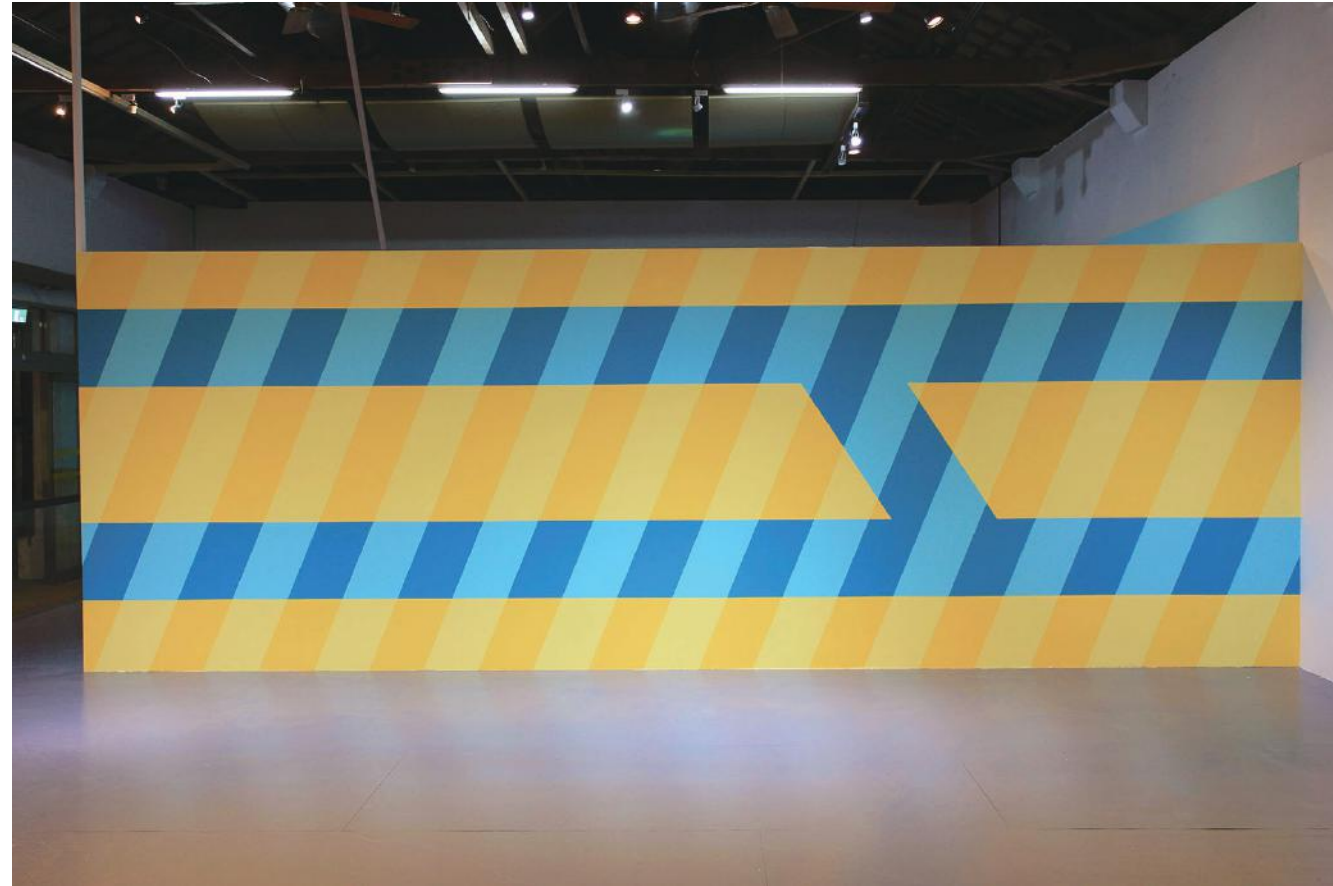
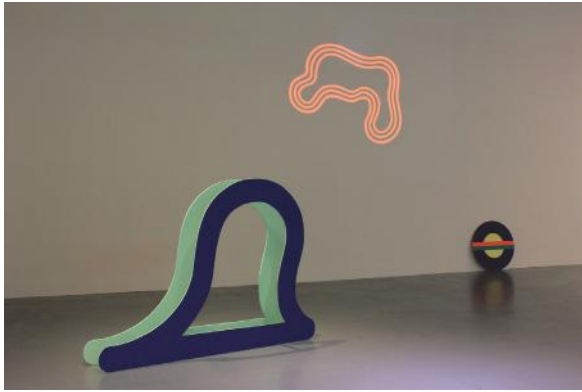


Remaking Ghosts

2017

インスタレーション / ミクストメディア

蕭壩文化區, 台南



archegraph_Wall #03

2017
アクリル塗料
270 × 800 cm



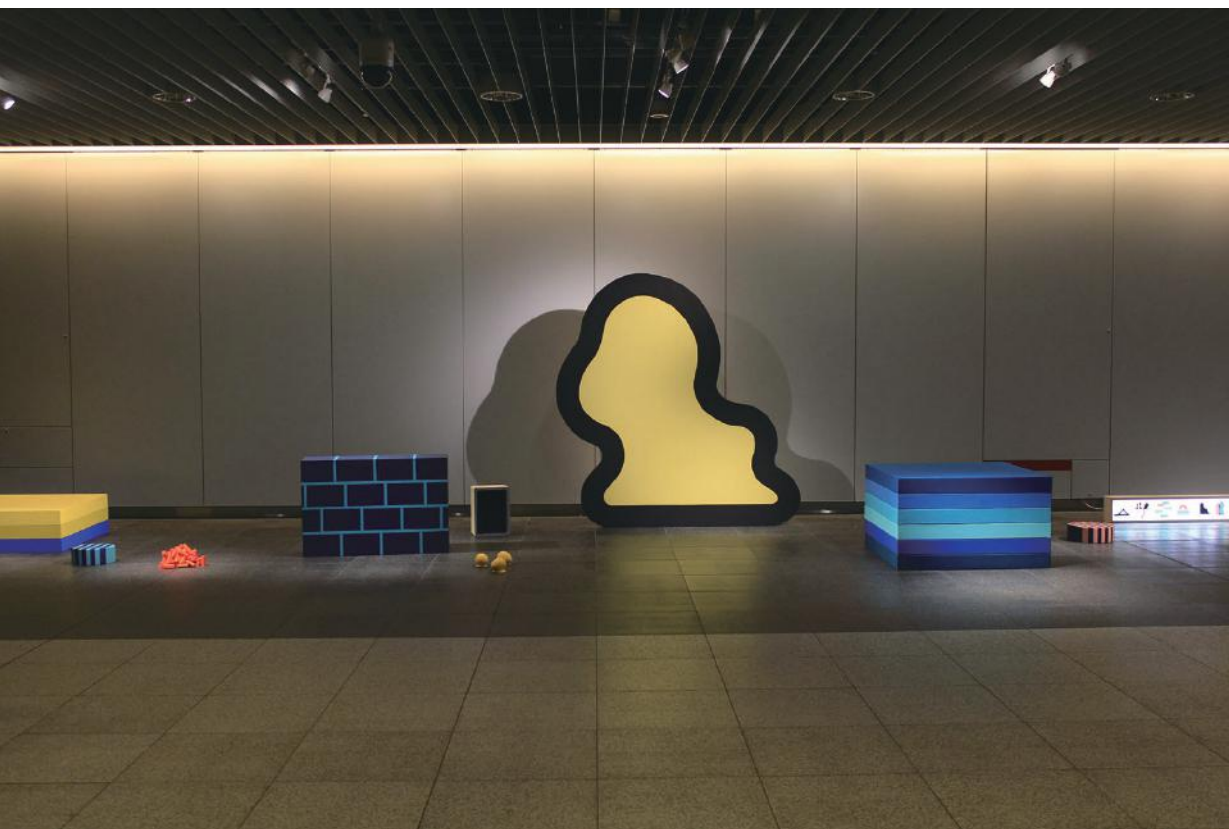
archegraph study_Seoul

2017

色鉛筆, 紙

21×28cm (228 pieces)

SeMA Nanji Residency exhibition halle, ソウル



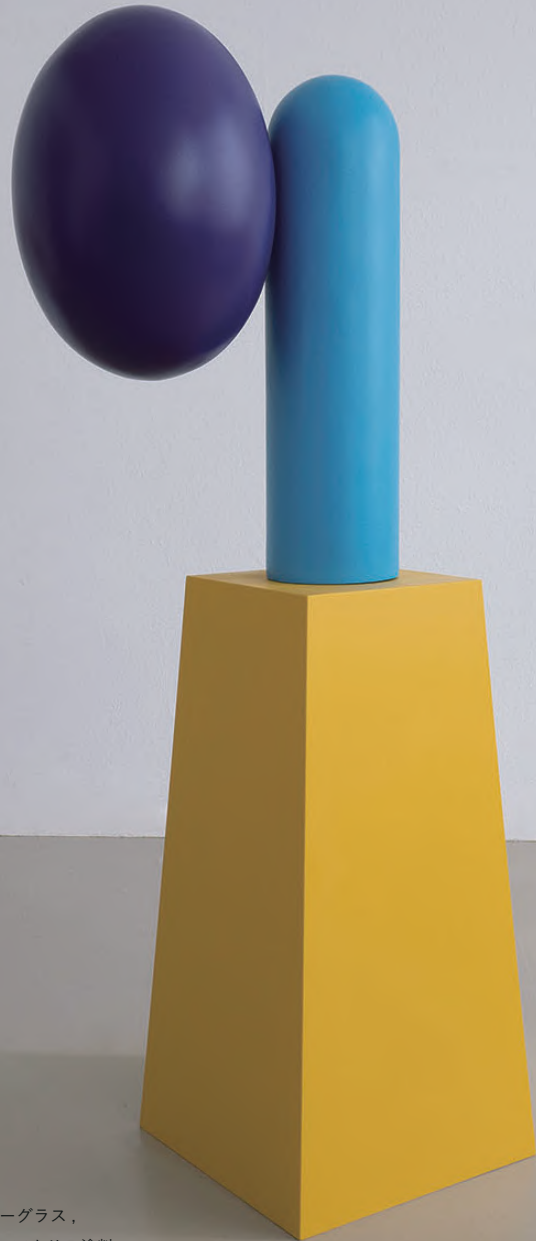
archegraph study_Sapporo

2016
インスタレーション / ミクストメディア
札幌駅地下歩行空間チカホ, 札幌

archegraph_Wall #02

2016
アクリル塗料





Mistletoe

2022

アクリル樹脂, ファイバーグラス,
スタイロフォーム, 木材, アクリル塗料

120cm×35cm×35cm

鈴木悠哉

1983年 福島市生まれ

2007年 日本大学芸術学部美術学科版画専攻卒業

2020-21年文化庁新進芸術家海外研修制度にてドイツ滞在
札幌、ベルリンを拠点に活動

主な個展

- 2022 Urban Iconography, Migrant Bird Space, ベルリン
- 2022 Intermediate, CAI03, 札幌
- 2021 Post Language Realm, クンストラーハウス・ベタニエン, ベルリン
- 2020 archeograph study_Berlin, Migrant Bird Space, ベルリン
- 2019 Phantoms Agora, 蕭壙児童美術館, 台南市 / 台湾
- 2019 New Excavation, 木木藝術, 台南市 / 台湾
- 2019 Futuristic Allegory, Migrant Bird Space, 北京
- 2018 City under the Water, Points Center for Contemporary Art (PCCA), 錦溪鎮 / 中国
- 2018 archeograph study_Tainan, 絶対空間, 台南市 / 台湾
- 2017 Remaking Ghost, 蕭壙文化園區, 台南市 / 台湾
- 2017 archeograph study_Seoul, salon cojica, 札幌
- 2016 耕作と歩行, CAI02, salon cojica, 札幌

主なグループ展

- 2023 新所蔵作品展, 愛知県美術館, 名古屋
- 2022 Jià Fèng, Troy House Art Foundation, ロンドン
- 2021 東京特快, AN+Art & Design Center (深圳)
- 2021 Unnamed Reality, 在地文化(広州)
- 2020 Microworld -Hidden Prototyp, Today Art Museum, 北京
- 2019 さっぽろアートステージ 2019, SCARTS, 札幌
- 2019 BENIZAKURA ARTANNUAL 2019, 紅桜公園, 札幌
- 2019 接ぎ木展, なえぼのアートスタジオ, 札幌
- 2019 ASYAAF, DDP, ソウル
- 2019 接ぎ木展, Art space + cafe Barrack, 瀬戸市
- 2017 札幌国際芸術祭 2017- ゲストハウスプロジェクト, 札幌
- 2017 Nanji 11th Season 1 Group Exhibition, SeMA Nanji Residency exhibition hall, ソウル
- 2016 さっぽろアートステージ 2016, 札幌駅地下歩行空間 チ・カ・ホ, 札幌
- 2016 アッセンブリッジナゴヤ 2016, MAT NAGOYA, 名古屋
- 2016 ヘキガ計画 02, テラス計画, 札幌
- 2016 City language, JR タワーアートボックス, 札幌
- 2016 ともにいること ともにあること展, 北海道立近代美術館, 札幌
- 2016 ズレ展, 500m 美術館, 札幌
- 2016 Think Tank Triennale open call exhibition, ポロツワフ / ポーランド
- 2014 札幌国際芸術祭 2014 - 時の座標軸, 500m 美術館, 札幌
- 2014 Becoming Undone, Kleiner salon, ベルリン
- 2014 Entre Nous, studio Nikibi, ベルリン
- 2013 Jeune Creation 2013, サンキャトル, パリ
- 2012 the last one before the break, Duende studio, ロッテルダム
- 2012 日常の冒険, 500m 美術館, 札幌

アワード / 助成

- 2021 Stiftung Kunstfonds NEUSTART KULTUR (ドイツ基金による活動助成)
- 2020 文化庁新進芸術家海外研修制度 (ドイツ)
- 2020 野村財団芸術文化助成
- 2019 Shenzhen Metro Art Museum Competition, Finalist, 深圳 / 中国
- 2016 JR タワーアートボックス優秀賞
- 2015 野村財団芸術文化助成
- 2013 Art Osaka 2013 グランプリ

レジデンスプログラム

- 2020 クンストラーハウス・ベタニエン, ベルリン
- 2018 Points Center for Contemporary Art (PCCA), 錦渓鎮 / 中国
- 2017 蕭壩国際芸術村, 台南市 / 台湾
- 2017 SeMA Nanji Residency, ソウル
- 2014 GlogauAIR, ベルリン
- 2014 SIM Residency, レイキャビック
- 2012 Duende Studio, ロッテルダム

パブリックコレクション

愛知県美術館

ワークショップ

- 2018 映像ワークショップ, 絶対空間, 台南
- 2017 映像ワークショップ, 蕭壩国際芸術村, 台南
- 2011 ドローイング / 映像ワークショップ, Saeed Ensafi's studio, テヘラン

出版

- 2022 カタログ archegraph study, Migrant Bird Space
- 2019 Phantoms Agora, 台南市政府文化局
- 2019 Fukt Magazine #18
- 2017 SeMA NANJI Residency 11th catalogue, ソウル市美術館
- 2017 archegraph study, salon cojica, CAI02

uyasuzuki@gmail.com

www.yuyasuzuki.com

